



日本共産党国会議員団千葉事務所 ☎043-302-2005
 県会議員 丸山 慎一 ☎047-424-6347
 <市議団控室☎436-3030 FAX420-7201>
 市会議員

岩井友子 ☎438-8647 関根和子 ☎447-0557
 事務所☎429-2160 事務所☎440-7950

金沢和子 ☎422-5278 中沢 学 ☎493-8140
 坂井洋介 ☎404-2039 松崎さち ☎090-6156-8592
 佐藤重雄 ☎432-9872 渡辺ゆう子 ☎462-7273

都市農地の保全と食育に役立つ 学童農園推進事業の充実を

船橋市では2006年から、農業委員会の会長や各委員の協力で、学童(児童・生徒)農園推進事業が開始されました。目的は市内の子どもたちに農業体験を通じて、農業や食の大切さ、地元農業への理解を深めてもらうというものです。地元の農家である農業支援員が指導にあたっています。

も役立っています。ところが本事業の農業支援者として活動してきた農業委員会では、委員定数がこれまでの26名から14名へと大幅に削減されてしまいました。市にとって大切な学童農園推進事業ですが、継続するには指導を行う農業支援者の確保が課題です。

安すぎる? 農園指導報償費

指導にあたる農業委員支援者には、農園指導報償費として、年額で5千円、耕うん作業等謝礼は、1回あたり1千円が支払われますが、安すぎるのではないのでしょうか。

農作業は種まきと収穫だけではありません。雨が降っても降らなくても農地の状況を確認し、暑い時期に草取りをし、作物の状況を見ながら追肥を行います。こうした作業に

する「報酬」はなく、農業委員の皆さんの熱意によって、事業が支えられているのが実態です。今後、市は農業支援者の確保に当たり、報償費や作業等謝礼を値上げすることも含め、教育委員会や農協なども支援体制について協議していくことを明らかにしています。

農業への理解がすすみ、好き嫌いがなくなる効果も

ある学校では保護者も一緒に学童農園に携わることで、農地や地元農業者への理解が広がっています。他の学校では、給食の残菜が減る、という効果が出ています。学童農園で作った野菜が給食に出た際に、校内放送で知らせた結果、「僕の作った小松菜は、おいしい」など、嫌いだった野菜が食べられるようになったとの報告も寄せられています。

非常に意義のある事業です。条件のある全ての学校で事業が開始できるように求めたいと思います。

まだまだ激変続く 南部地域

オートレース場跡地が、巨大物流倉庫群に?

公営ギャンブルは、「繁盛すれば社会問題を、衰退すれば税金の投入が」として、日本共産党は「廃止」を主張し続けてきました。

ついに、船橋オートは「税金投入が避けられそうもない」ということで、廃止になりました。

いま、あの広大な土地(三井不動産所有)の再開発計画が示されましたが、その利用法は物

の倉庫が運営されていて、最終的には3棟の巨大倉庫群にする、というものです。

そうなれば、交通問題は一定の地域に影響することが避けられず、道路の整備は、待ったなしの課題です。

今の道路は、高圧送電線の「架空線用地」を使ったものであり、この改善を求めて行きます。

すでに北側には一棟「商業地域」ではありませんが、さらばーとなごの「集客施設」

もあり、南船橋駅から海に向かうルートにも重なることから、公園や道路などの「都市施設」の整備も欠かせません。新しい課題として、提案もしていきたいと思っています。

市長は、海老川上流域を「メディカルタウンにする」などとして、「大部分を宅地化する」区画整理事業を進めようとしています。

あの地域の「二万年前の姿が想像できる」遺跡があります。「取り掛け西貝塚」と言いますが、その貝塚は一万年以上も前に人が豊かに暮らしていた跡なのです。そこに暮らしていた人たちが残した貝殻です。その貝殻を採取した場所が、区画整理で宅地にされようとしている湿地の跡です。

貝塚の一部はすでに破壊されていますが、船橋の台地の縁は、どこも

船橋の台地の縁には「豊かなくらし」があった!

私たちに、この遺産を未来に引き継ぐ義務があると思えますが、みなさんはどうお考えになりますか?

議会でも、この一帯を遺跡群として保存するために、都市計画事業として「公園」として保存することを求めました。議論は「特別委員会」でも進められています。

古代に夢を馳せて、「未来に繋ぐ」、それが船橋市の使命だと考え方を注いでいきます。

日本共産党船橋市議団主催

無料 法律相談

8月23日(水)
9月20日(水)

弁護士が相談を受けます
労働相談も受けています
会場：中央公民館
時間：午後1時～4時
要予約 ☎436-3030